

# 2022年度日本農村生活学会大会 (第70回記念大会) 開催要領

## 1. 趣 旨：

高度経済成長期以来、食と農（食の生産と消費）が遠く離れ、私たちの生活は食の安全安心など食にまつわる様々な問題に直面している。そうした問題を解決するために、1990年代以降、食と農を地域で再び結びつける重要性が認識され、世界各地で様々な取組が広がってきた。また、近年では、地域内で農産物を流通させることだけでなく、食と農の周辺にある多様な地域課題を解決する取組みへと展開している。

本シンポジウムでは、食と農をつなぐ取組みについて、課題解決を目指した仕組みづくりの側面から定義し、それがどのように地域の課題にアプローチできるのか現状と可能性を議論したい。そのために、3人の実践者にパネリストとして登壇いただく。第1報告は、すみだ食育 good ネットの秋田昌子氏に、すみだの食育の取組みについてご報告いただく。

「農」がない都市において、地域課題としての食育がどのように位置付けられ、どのように食と農をつなげてきたのか。また、それをどのような行政との関係において取り組んできたのか紹介いただく。第2報告は、エディブル・スクールヤード・ジャパンの堀口博子氏に、学校の校庭にエディブルスクールヤード＝食育菜園を作るエディブル教育の実践についてご報告いただく。学校教育や子どもの発達に、食を通じて自然と命とのつながりを体験的に学ぶエディブル教育が果たす役割や学校教育への影響について紹介いただく。第3報告は、ナチュラルフード森の扉の野原典彦氏に、有機栽培や自然栽培で生産された農産物の提供や農業体験など、地域内外が交流するプログラムの実践についてご報告いただく。農業体験を受け入れる農村地域にどのような課題があり、地域内外の交流によってお互いにどのような変化が見られるのか報告いただく。以上の3報告のあと、地域課題の現状とそれへのアプローチとしての食と農をつなぐ取組みに関して、活動の内容的な広がりや深まりを確認し、それが地域社会にどのような影響を及ぼしうるのか、あるいは、どのように課題解決に結びつけられるのか議論し、食と農がつながることの今日的意義を改めて整理したい。

さらに、2日目は2つの話題提供をきっかけに、「円卓」でざっくばらんに議論しつつ、さらに認識を深める。ラウンドテーブルAは、合同会社繋ごう農村の佐藤豊彦氏と坂本朋子氏に、栃木県那珂川町での移動販売とコミュニティナースの取組みについてご報告いただく。ラウンドテーブルBは、宇都宮市で子ども食堂を主宰している、キッズハウスいろどりの荻野友香里氏に、子ども食堂が食事を提供するだけでなく、幅広い取組みへと広がっていることについてご報告いただく。

2日間にわたって、食と農の現場からの豊富な話題をもとに、シンポジウムとラウンドテーブルという形式で、食と農がつながることの可能性、社会や地域にどのようなインパクトを与えうるのかについて議論が深まることを大いに期待したい。

**なお、参加申込書やプログラムの詳細につきましては、学会HPをご覧ください。**

<https://www.rurallife.org/>

2. 主 催：日本農村生活学会

3. 開催日時：令和4年10月8日（土）～9日（日）

4. 開催場所：栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学農学部（対面のみ）

5. 開催内容：

【1日目（土）】

- (1) 開会挨拶 13:00～13:15  
学会長挨拶 : 市田 知子 (明治大学)  
大会委員長挨拶 : 西山 未真 (宇都宮大学)  
開催校代表挨拶 : 山根 健司 (宇都宮大学 農学部長)  
シンポジウム準備 13:15～13:20
- (2) シンポジウム 13:20～16:00  
テーマ「食と農がつながることで、社会や地域の問題にどうアプローチできるか？」  
座長： 西山 未真 (宇都宮大学)  
座長解題 13:20～13:35  
パネリスト報告：  
(1) すみだ食育 good ネット(元墨田区職員) 秋田 昌子  
「農のない都市の食育の取り組み ―すみだの食育の事例―」  
＜食で！育む 行政の現場から＞ 13:35～13:55  
(2) エディブル・スクールヤード・ジャパン 堀口 博子  
「食育菜園で体と頭といのちと自然をつなぐ」  
＜農業体験による変化 学校教育の現場から＞ 13:55～14:15  
(3) ナチュラルフード森の扉 野原 典彦  
「都市住民が広げる農の可能性」  
＜農業体験の受け入れによる変化 地域社会の現場から＞ 14:15～14:35  
休憩 14:35～14:45  
質疑応答とディスカッション 14:45～15:45
- (3) 2022年度学会賞授与式 16:00～16:20  
(4) 学会総会 16:20～16:50

【2日目（日）】

- (1) 一般報告 12題 (2会場) 9:30～11:40  
※1人20分 (報告15分 質疑応答5分を目安に)
- (2) 休憩 11:40～13:00
- (3) ラウンドテーブル 13:00～15:00  
ラウンドテーブルA  
「移動販売とコミュニティナースの活動 ―農村地域の買い物弱者と社会的孤立―」  
コーディネーター：東京農業大学 杉原 たまえ  
事例報告：合同会社「繋ごう農村」 佐藤 豊彦・坂本 朋子 (栃木県那珂川町)  
コメント：小坂田 稔 (美作大学)

ラウンドテーブル B

「子ども食堂の取り組み ―経済的貧困と関係性貧困―」

コーディネーター：千葉農村地域文化研究所 飯塚里恵子

事例報告：キッズハウスいろどり 荻野 友香里（宇都宮市）

コメント：中村 貴子（京都府立大学）

(4) ラウンドテーブル総括・閉会式

15:15～15:45

6. 参集範囲：日本農村生活学会会員、普及担当部局、農業関係試験研究機関  
関係大学、団体など

7. 参加費等：大会参加費（報告要旨代を含む）

会 員	4,000 円
非会員	5,000 円

(ただし、パネラーの関係者などはこの限りではありません)

学 生 (含非会員)	2,000 円
報告要旨のみ (当日以降販売)	2,000 円
2日目の昼食 (里山旬菜弁当) 予約販売のみ	1,300 円

8. 大会に関する問い合わせ先：日本農村生活研究大会委員会

E-mail : rsj2022@vfarm.jp